

執筆者紹介

矢野みのり（京都文教大学大学院文化人類学研究科2016年度修了生）

編集後記

2000年4月に設置された京都文教大学大学院文化人類学研究科の紀要である『京都文教文化人類学研究』は、2004年3月に第1号が発行された。

筆者の研究室には東京都立大学社会人類学研究室発行の『社』、筑波大学歴史人類学系民族学研究室発行の『族』、明治大学社会人類学研究会発行の『ふいんど』、神戸大学社会人類学研究科発行の『ほぶるす』、その後継である神戸大学大学院国際文化学研究科文化人類学コース発行の『神戸文化人類学研究』が書棚に並んでいる。いずれも同じ判型である。執筆者をみるとすでに定年になった人びとも多いが、日本における文化人類学、社会人類学の黎明期からの歴史を物語る雑誌類である。

今回の紀要は研究生一名の論文のみであるが、改組された文化人類学科の最後の卒業生が進学して取り組んだテーマに関するものである。修士論文をかなりの時間をかけて書き直したものである。

現在、中国からの留学生三名が研究科に在学し、この一月に修士論文を提出したところである。これから口頭試問を経て無事に修了することになれば、在学生はいなくなり、研究科は閉じる予定である。学部からの進学がなくなり、ここ数年は中国からの留学生のみとなっていたため、やむを得ない措置である。

昨年11月の学園祭の折に、修了生をあつめて大学院での学びが現在の職業にどのように生かされているか、などについてシンポジウムをおこなった。博士課程に進学した修了生も少なからずおり、それぞれ頑張っているようである。シンポジウムの内容については、次号に掲載する予定であり、それが紀要の最終号となる。今年度の修士論文も掲載予定である。

2019年3月 遠藤 央

編集「京都文教大学大学院文化人類学研究科研究紀要」編集委員会
金 基 淑（京都文教大学大学院文化人類学研究科教授）
遠 藤 央（京都文教大学大学院文化人類学研究科教授）

京都文教文化人類学研究

第 12 号

平成31年 3月31日 発行

発 行 京 都 文 教 大 学 大 学 院
文 化 人 類 学 研 究 科
京都府宇治市横島町千足80番地
〒611-0041 電話 (0774) 25-2400
印 刷 新 和 印 刷 株 式 会 社